

作品募集〈写真・歌合わせ〉

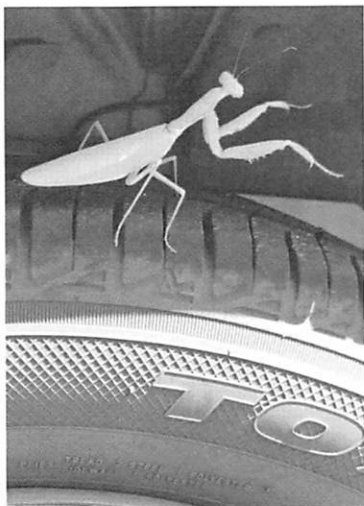
*写真A・写真Bのいずれかを素材に短歌を一首、自在に遊びのつもりで作って送ってください。

A



【写真：田土成彦】

B



【写真：もりやまきょうこ】

《要項》

- ・ 締切…令和4年1月末日
 - ・ 掲載…4月号
 - ・ 官製はがきに選んだ写真AかBかを明記の上、一首を書いて左記にお送りください。(一人一首のみに限ります。)
- メールでの投稿も大歓迎です。

〒535-0005 大阪市旭区赤川4-23-17

E-mail tt2317s@outlook.jp

田土成彦

神田通信

● 歌稿の送り先について ●

一月以降も

月々の歌稿の送り先は、

263-0031 千葉市稲毛区稲毛東

6-10-2-1202

関谷方 久我田鶴子

締切は、毎月十日必着です。郵便物の土曜日配達が十月から休止、届けられる日数も繰り下げとなりました。時間の余裕をもってお送りください。

新型コロナウイルスによる状況が落ち着くまで本社に集まって作業することを控えています。

◆今年は何れ七十周年。神田へ本社が移転して十年。地中海にとって意義深い年です。八十周

年に向け、新たな道を開く決意で頑張りたい。(藤森)

◆タンチョウの飛来する頃となった。「銀の匙」で有名な中勘助に『鳥の物語』というのがあった、その中に丹頂の物語がある。なぜ頂が朱い(丹)のかが赤人の歌にかけて書かれていて面白く読んだのを思い出す。ぜひ一読をお奨めしたい。(茂木)

◆阜山記念館の名宝展は見事だった。荏原製作所創業者、数奇者の即翁は豊富な財力を注ぎ込んで伝統文化の庇護に努めた。現代の富豪にこんな教養人はいるのだろうか。(高尾)

◆朝日紙に「憑依する名句」と題し、坊城俊樹氏が松本たかしの名句「夢に舞ふ能美しや冬籠」に触れている。弟の恵雄の重厚な能は学生時代にすいぶん堪能した。たかしが舞えたらどんな憑依を見せたのだろうか。(和美)

◆毎週金曜日の放課後、「まなびの広場」で地域の小学生たちと過ごしている。風船パレーの相手をしながら、つい本気になっ

てしまう自分がいる。(藤田)

◆遠方からはとこが来た。57年ぶりの札幌だそうである。祖母同士が姉妹といっても思っていたのだが、顔を見てびっくりした。亡くなった祖母にそっくりだった。(木村)

◆11月16日の発表ではコロナ陽性者は百人を切った。外国ではまだ増えている所もあるが、この差は何なんだろう。ワクチンだけでは片づかない謎がある。(成彦)

◆ドラマ「日本沈没」。画面に都市水没の場面。原作が出た頃は、沈没だなんて思っていたが、震災、原発事故、コロナ。なんととも言えない。(楢垣)

◆用水路建設は「平和運動ではない。医療の延長なんです」。知識や体験ではなく、経験化された言葉で、静かに且つ明確に中村哲は語っていた。(三好)

◆小五の息子は一月後半に新潟に学校行事のスキースクールに行く予定。昨年はコロナ、一昨年は雪不足で滑れなかったが、

今年はどうかな。(玉井)

◆毎月滞りなく届く「地中海」。校正はじめ多くの方の協力によるものですが、コロナ禍の一年八ヶ月余り、編集長が一人で割付から最終チェックまで頑張ってくださいありがとうございます。印刷所の頑張りもありたい事です。(磯田)

◆十一月に入って、訃報が続きました。二日に上田吟子さん、十日に奥田清和さん。更に、二十二日に鹿島茂さん。長く地中海にご尽力くださった方々に感謝とともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

◆今号、「生きることをベースに思うままに」は、角川「短歌」十月号に掲載された「短歌の底荷」を元に加筆したものです。新年のご挨拶代わりに。

◆私事で恐縮ですが、「NHK短歌」の誌上添削教室を四月号から担当することになりました。「歌壇」の二月号から五月号でも読者歌壇を担当します。

(久我)

クリップ

■入会届・退会届について

葉書に、①氏名(ふりがな)

②住所 ③電話番号 ④生年月日

⑤性別 ⑥送本開始(停止)

月を記入の上、本社に提出してください。

退会届の場合は、①

②⑥の記入をお願いします。急

な送本停止には対応しきれませんので、ご了承ください。

■会費納入について

会費は、半年分、または一年分を前納することになっていきます。

各欄の月額は次の通りです。

・ A欄 二〇〇〇円

・ B欄 一五〇〇円

・ C欄 一〇〇〇円

・ 購読 一〇〇〇円

二十歳未満の学生は五〇〇円です。(若い人たちも是非「勧誘ください」)

00160・4・179569 地中海社

振替用紙の連絡欄に内訳を書きください。支社・グループでまとめて納入していただける幸いです。

■原稿用紙のご注文について

一冊一五〇円。それに送料がかかりますので、まとめてのご注文がお勧めです。本社、または担当の茂木城までご連絡ください。こちらから発送する際に振込用紙を同封いたしますので、代金はそれを使って振り込んでください。

■本誌の追加注文について

本社に葉書にてご連絡ください。代金は一冊一〇〇〇円。会費と同じ「地中海社」の口座にお願いします。

■見本誌について

勧誘用に見本誌をお求めになる場合は、送料のみご負担いただきます。二冊までなら二〇〇円分の切手を同封してお申し込みください。

■歌集を出版する際には

地中海叢書番号をご請求ください。

さい。葉書に住所氏名の他に、

①歌集名(未定の場合には仮題でも)

②発行時期 ③版元を記入して本社宛に。折り返し、登録した叢書番号と事務手続きの

文書をお送りいたします。

出版後には本社保管用に一冊

お送りください。

■九重書林は、比較的安価な歌集出版を考えていて、自分では

どうしていいか分からず困っている方のために立ち上げました。

印刷・製本は、本誌の印刷をしている京成社にお願いしています。

二、三〇万円くらいでも予算に応じた出版が可能です。まずは、編集部にご相談ください。

■本社への連絡について

葉書か封書をお願いします。

電話はありますが、常駐する者がおりませんので、誰かが本社で作業している時にしか通じません。急を要する場合には、

・ 藤森：☎ 090-8301-6423

・ 久我：☎ & FAX 043-241-7925

までご連絡ください。

● 訃報 ●

11月10日、元大阪支社長の奥田清和さんがご逝去されました。享年96歳。

謹んでご冥福をお祈りいたします。【地中海社】

● 訃報 ●

11月22日、歳王支社長だった鹿島茂さんがご逝去されました。すでに退会されていましたが、地中海に長年ご尽力くださった方でした。心よりご冥福をお祈りいたします。【地中海社】

● 実務連絡 ●

■ A欄推薦について

二〇二二年度、A欄に推薦する会員のいる支社・グループ長は、三月末日までに小野雅子宛に推薦資料をお送りください。B欄で三年以上経過していることが必要条件です。

- ・記入事項：①氏名 ②生年月日 ③職業
④入社年月 ⑤歌歴（B欄になった年月）
⑥短歌に関わる業績など

運営連絡会で承認されれば、十月号からA欄会員となります。

■ 原稿用紙の注文について

一冊一五〇円。それに送料がかかりますので、まとめてのご注文がお勧めです。こちらから発送する際に振込用紙を同封します。代金はそれを使って振り込んでください。担当は、茂木城（もてぎ・さかる）です。ご注文は、こちらへ。

369 | 0122
鴻巣市南 1-16-1
茂木城

■ 新会員紹介

丸山哲史（信濃）・もとむらゆみこ（そ）・立見千代子（斑鳩）

■ 第27回実務委員会・報告

十月下旬、文書郵送をもって行いました。二〇二二年度前期の総務部の活動報告、及び会計の中間決算報告等。

本社に集まって作業することのできない中、地中海誌の発行・事務処理・会計業務等、遅滞することなく行うことができました。本社宛の郵便物等については、磯田ひさ子さんが定期的に通って、各方面との連絡もとってくれています。

次回の実務委員会は四月に予定されていますが、コロナ禍が収まり、一堂に会して開催できることを願っています。

■ 「地中海」創刊七〇周年記念号について

五月号が創刊七〇周年記念号になります。通常の誌面に記念企画が加わり、平常よりもボリュームのある号になる予定です。ただ今、その準備中。お楽しみに！

■ 切手の料金不足にご注意を！

このところ、一円、十円という僅かな料金不足ですが、いたたく郵便物の不足料金を郵便局から請求されることが続いています。ご注意ください。

定型の郵便物でも重量オーバーだとプラス十円かかり、九十四円になります。

◇「久に」は、「久々に」や「久しぶり」とは違います。

「久に」は副詞で、「ひさしく」「ながらく」の意。『広辞苑』の用例には「待つほど久になりぬれば」とあります。待つ間がひさしくなる（長くなる）というように使われています。

原稿を読んでいると、「久に会う」や「久に行く」などという表現に出会うことがあります。が、「ひさしく会う」「ひさしく行く」と言いたいのでしょうか？ ちょっとおかしい日本語です。作者はたぶん、「久々に会う」とか、「久しぶりに行く」と言いたかったのではないのでしょうか？

◇「思ふて」「買ふて」とはなりません。

文語の「思ふ」「買ふ」は、ハ行四段活用ですから、「は・ひ・ふ・ふ・へ・へ」と活用変化します。助詞の「て」に続くのは連用形。したがって、「思ひて」となります。

それが発音の便宜上、単語の中のある音が変化することがあり、それを音便と言います。

音便には、イ音に転じるイ音便、ウ音に転じるウ音便、ン音（撥音）に転じる撥音便、ツ音（促音）に転じる促音便の四種類があります。

「思ふ」「買ふ」は、「オモて」「コーて」と発音するウ音便と、「オモッて」「カッて」と発音する促音便にもなります。表記するときは、「思うて」「買うて」（ウ音便ですから「う」と表記されます）、「思つて」「買つて」（旧仮名遣いでは、小さい「つ」はありません）となります。

◇「老ひ」「老ひて」とはなりません。

口語の「老いる」は、文語では「老ゆ」というヤ行上二段活用の動詞で、「い・い・ゆ・ゆる・ゆれ・いよ」と活用変化します。

したがって、名詞として「老い」と表記するときも「老い」動詞の連用形で「て」に続く場合も「老いて」となります。

現在の仮名遣い（新仮名遣い）と同じ表記になるので、旧仮名遣いを使用している人は過剰に旧仮名遣いに寄せようとして、「老ひ」や「老ひて」と書いてしまうことがあるようですが、それは間違いです。旧仮名遣いでも「老い」「老いて」です。

◇「出ず」か、「出づ」か？

口語の「出る」は、文語の「出づ」から来ています。これに、打消の助動詞「ず」を続けた場合、「出ず」となります。

ところが、新仮名遣いで「出づ」を書いて「出ず」ということになり、出ないのか、出るのか、訳が分からなくなってしまう。

『広辞苑』では、「いず」「出づ」「と出ていて、漢字を用いた場合は旧仮名遣いの表記になっています。他には、「愛でる」の意味の「めず」「愛づ」「奏でる」の意味の「かなず」「奏づ」「なども同じように掲げられています。新仮名遣い使用の人でも、これらの言葉に限っては「出づ」「愛づ」「奏づ」と表記している人もいます。

「地中海」では今のところ、「出ず」を「いず」と読ませる場合は「出ず」とルビを振るようになっています。「出ずる」の場合には、「いずる」と読むことが分かりますので、ルビはつけません。

●地中海叢書◇新刊・近刊案内●

- ・若林美知恵歌集『逃げ水を斬る』(第935篇) ながらみ書房 二四〇〇円＋税
- ・箕浦 勤歌集『酒匂川越ゆ』(第940篇) いろの舎 二五〇〇円＋税
- ・上林節江歌集『花と濡れつつ』(第941篇) ながらみ書房 二六〇〇円＋税
- ・菊地栄子歌集『賢道』(第942篇) 南北社 二五〇〇円＋税
- ・西堤啓子歌集『あるがまま／スマイル』(第943篇) 青磁社 二五〇〇円＋税
- ・近藤芳仙歌集『茅花』(第945篇) 砂子屋書房 三〇〇〇円＋税

*歌集についてのお問い合わせは直接著者にお願います。

〈近刊予定〉

- ・色井静代歌集『風吹くままに』(第944篇) いろの舎
- ・御代田澄江歌集『花の遁走曲』(第946篇) 九曜書林
- ・八橋千代子歌集『横浜』(第947篇) 九曜書林

*他にも準備中の歌集が数冊あります。出版の際には、地中海叢書番号を本社にご請求ください。また、出版に関するご相談も遠慮無くどうぞ。